

今、リニア対応を強める条例「改正」

山田厚の本会議不同意討論

甲府市議会本会議 2023年3月10日

●議案第23号「事務分掌条例の一部を改正する条例」に反対の討論を行います。これは「リニア中央新幹線及び総合交通体系に関すること」をまちづくり部から**企画財務部に移す**というものです。当局の目的・説明によると「効率を行政施行の確立を図るため」とだけしています。これでは内容が全くよく分からないだけに不安を感じるのは私だけではないでしょう。

●「効率化」というと、総合交通体系というより企画財務部となると財政問題でしょう。対応の「効率化」を目指すなら、公費の扱いが効率的となるのでしょうか。それでは庁内の議論も曖昧のまま、職員の多忙化を強めるだけでなく、議会の判断・審議も曖昧にされかねません。

●山梨県は、かつて金丸信さん時代にリニアに膨大な血税である公費を使いました。米倉山、玉穂のビジネスパークや藤壘などその膨大な債務額は未だにあと10年以上も続き、全国では社会保障のワースト県になっています。

●ご存知のようにそもそもリニアの開通は2027年には無理です。陥没事故の多発や残土処理問題、大井川の水の問題などなど。「あと数十年もかかるのでは？」とか「開通は不可能では？」ともいわれています。

●そもそもリニアは必要ですか？

人口減少社会とかオンライン業務ともされている中で、市の財政的な専門部署を高めることは、市民にとって本当に必要不可欠でしょうか？ いつまでも「リニアは千載一遇のチャンス」としていいのでしょうか？

●今、市民は生活に困っているじゃないですか。必要なことは社会保障など、市民を助けることです。物価高騰やインボイスは、これからさらに廃業・倒産・失業を高めます。それに、この10月から医療・介護の診療報酬・介護報酬がさらに負担増がはじまろうとしています

今、甲府市に必要なことはリニアに膨大な費用をかけることではなく、市民の生活を支えることではないでしょうか！

議員各位の、誠意ある判断をもとめます。

これは、発言会議録ではありません。山田が当日メモによる実質ノー原稿発言したものを文章にしたものです。内容的にはほとんど変わりませんが、会議録は5月になってからです。